

## 思考力・判断力・表現力を育む日本語指導 ～言語活動の充実を通して～

### I 研究の内容

東山梨地区日本語教育研究部会では、小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっている。新学習指導要領の完全実施を見据え、昨年度よりこのテーマを設定し研究を進めてきた。また、小・中ともに「言語力を高める」という共通テーマで研究を行っているため、公開授業の指導案検討や当日の参観・研究会等、合同で研究する場面も設定している。

現代社会の変化に伴い、コミュニケーション手段の変化や人間関係の希薄化など、生徒たちを取り巻く社会には多くの課題がある。新学習指導要領においても、言語活動を通して思考力・判断力・表現力を養い、生徒自身の生活経験を通して、感情や認識を言語化し自らの力にしていくことが重視され、今まで以上に、国語科の果たす役割は大きなものだと言える。

昨年度に引き続き、本部会では、子どもたちの実生活に寄り添いながら、「主体的に『書く』『話す』こと」を中心としたコミュニケーションを通しての授業作りを行っている。また、思考力・判断力・表現力を高めるために必要な言語活動の模索、実践についても研究を進めている。

本年度は、8月の統一授業研究で甲州市立塩山中学校において、中学2年の「敬語の働きについて知り、生活の中に生かす力」に注目した授業実践を行った。日常的に先生に対しては丁寧語で接している生徒、同時に、「敬語」という言葉が先行し「丁寧語＝敬語」という誤った認識を持った生徒も多いという実態があった。そのため、今後の職場体験や高校入試など、生活の中で生かすことのできる敬語の定着を図るということを目指し授業作りが行われた。また、学級の実態として、話す力において個人差が非常に大きいということもあり、グループ活動の中に場面を設定し、ロールプレイングを行うことで実際に「話す」という活動にも重点を置いた授業が展開された。また、2月の統一授業研究では、小学校との合同研究を行い授業案作りにも参加させていただいた。小学5年生の「わらぐつの中の神様」という文学作品の読解を、グループごとの朗読劇を用いて深めていくという実践である。学習過程の中で、登場人物の心情をそれぞれがどのようにとらえ、何を根拠にしたのかという視点を交流し合うことで、お互いの読みを深め合う。さらにその読み取った心情を朗読によって表現し、一人一人の考えや価値観の相違に気づき尊重していく。この授業を通して、子どもたちが伝え合う喜びに気づき、さらに様々な表現方法を工夫していくことで、お互いの気持ちや考えの伝達を図ろうという意欲が高まっていく姿が見て取れ、大変有意義な合同研究となった。

## II 成果と課題

### 1 塩山中学校 日野原裕子先生の実践「敬語を生活の中に生かそう」について

1年時に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イことばの特徴やきまりに関する事項」についての指導に多くの時間をかけた。しかし、直後のテストでは正答を導くことができた生徒も、2年時には定着していないということがわかった。「話し言葉と書き言葉の違い」についても、作文を書くたびに指導しているがなかなか定着が見られず、「類義語・対義語・多義語」等でも、覚えるべき要素が強く、生徒の学習も言葉を覚えるということに重きが置かれてしまった。また、生徒の実態に「話す力」の個人差があり、特に「人前で話すこと」「大きな声を出すこと」等が苦手な生徒が複数いた。そのため、班の話し合いの際に意見を言えない生徒には、自分の意見ではなくても班の意見として発言しても良いということを日常的に行っていた。これらの課題から、意味を理解し日常の中で使えることを目標とし、グループ内でのロールプレイングを用いる今回の実践を行った。

事前のアンケートから敬語の必要性・重要性をおさえ、基本的な敬語の種類（丁寧語・尊敬語・謙譲語）を学習し、班の中で分類表を作成する学習から始まり、その後、三つの場面設定「先生と電話の対応をする」「職場体験でお礼を言う」「絵の展覧会を開く」について各自で言葉を考えた。さらに、班の中でロールプレイングをし、全体で正しいかどうかを確認するという授業を展開した。

分類表作成では、スムーズにできていない生徒が多かったが、班の活動の中ではとても意欲的に活動していた。特に、謙譲語と尊敬語があいまいになっている生徒が、ロールプレイングで実際に声に出すことで違和感に気づき、自分の言葉を改めていく場面があり、教師側が期待していた部分が多く見られた。同時に、普段発言が難しい生徒も、ロールプレイングの中で言葉に表現することができたのが良かった。一方で、生徒自身の生活経験の中から様々な言葉が引き出されことは有意義であったが、一つ一つの敬語の細かな部分については指導が必要であり、そのための時間も必要であるということを実感することができた。

今回の授業実践、研究を通して、子どもたちの実生活に寄り添いながら主体的なコミュニケーションを促し、思考力・判断力・表現力を培っていこうという本部会のテーマに迫ることができた。今後とも、国語科としての役割をしっかりととらえながら、さらなる学力の向上を目指していきたい。

### 2 その他

- ・国語科における「言語活動」について、小中ともに共通理解し課題解決に迫ることができたことは大変有意義であった。今後とも、指導内容を小中連携していくことが必要である。
- ・授業の中で終始してしまうのではなく、他教科との連携や生活の中で生きていく国語力の視点を持っていきたい。

(部長 平山 直樹)